

テーマ: 己を知り、世界とのつながりを識る(言語・音楽を中心に)

【授業の趣旨】

4年時の卒業研究の執筆に必要なテーマ設定、先行研究の検索方法を指導し、論文の作成を指導します。本ゼミのテーマである「己を知る」ことを常に意識し、そして「世界のつながり」にあるように、自分が世の中の何に関わっているのか、どのように役に立つのかを考えていきます。とくに、現在の言語分布に至る歴史を紐解き、人の流れや出来事を理解します。また、言語につながる社会的制度、文化なども取り上げていきます。さらに、音楽との関わりなどは学生と一緒に討論していきたいと考えています。伊藤の研究に関するキーワードは「音声学(音響音声学・調音音声学)、言語学、語源学(語史)、中国語、ベトナム語」で、それに付随するキーワードとしては「ロシア語、フランス語、タイ語、国歌、民族音楽、作曲学、コード学、器楽演奏、多文化共生、地域共生」を挙げます。

【授業計画】

3年次春学期はグループワークや簡単な課題を出して、発表/発信(アウトプット)する姿勢を身につけてもらいます。そのために、まずレジュメとパワーポイントの作成指導をおこないます。その取り組みを重ねながら、自分の書きたい論文のテーマを見つけていきます。秋学期では、論文のテーマを発表してもらい、それに関連するキーワードをゼミ内で議論します。テーマが固まった頃に、Wordでの長い文章の作成方法について指導します。

伊藤マサゼミ生では、卒業研究の対象が「オノマトペ(擬声語・擬態語)」「疑問詞」「ビートルズ」「邦ロック」「部活動(野球)」「文字解読」などの言語と音楽の二本柱が主となっています。

母語でない言語に触れたとき、必ず「なぜ？」が生まれます。母語との比較をおこない、「なぜ？」を追究します。このように「言語」について取り扱います。「音楽」の取り扱いについては、授業で簡単な作曲学とコード学を指導します。楽器を演奏することはありませんが、音楽がどのように社会とつながっているか/影響しているのかを追究します。その他の分野は各学生の主体性に任せ、授業では取り扱うことはしませんが、場合によってはクラスで議論をすることもあります。

いずれにしても、「なぜ？」を明確に持ち合わせていることを望みます。とくに、卒業研究に音楽を希望する場合は、早い段階から「楽典」に触れておくことをつけ加えておきます。

【面談について】

☆Google・フォームにて面談を申し込んでください。

○本文に、1)面談希望日時、2)中間論文で扱うテーマと内容、3)(現段階において)卒業研究で取り扱いたいテーマ、4)「専願(第一希望)・併願(迷い中)・面談のみ」の別、5)集団面接の可否を記入してください。

※2)と3)については本音を書いてください。当ゼミのテーマ(言語・音楽など)に合わせる必要はありません。

